

# IGF2016 に関する報告会 レポート

2017年2月13日

## 1. 会合の概要

- 日時： 2017年1月26日(木) 16:00~17:45
- 会場： JPNIC 会議室
- URL： <http://igcj.jp/meetings/2017/0126/>

### 1.1. 参加状況

- 会場参加者数：30名
- 遠隔参加者数：3名

### 1.2. アジェンダ（発表者敬称略）

#### 1. 全体概要紹介

- 一般社団法人インターネットユーザー協会(MIAU) 香月 啓佑
- 一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC) 奥谷 泉
  - IGF とは
  - 今年の特徴、IGF を取り巻く環境
  - 主な議論のテーマ
  - 会場の様子、全体の雰囲気...等

#### 2. 各登壇者の視点（発表者敬称略）

##### 2.1. 政府：日本政府としてオープンフォーラムを開催した理由

総務省 総合通信基盤局 電気通信事業部 データ通信課 高村 信

##### 2.2. 技術コミュニティ：

株式会社日本レジストリサービス(JPRS) 堀田 博文  
東京大学/ISOC 理事 江崎 浩  
一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC) 奥谷 泉

##### 2.3. アカデミア・市民社会：

一般社団法人インターネットユーザー協会(MIAU) 香月 啓佑  
大東文化大学 上村 圭介

##### 2.4. ビジネス

一般財団法人インターネット協会 (IAjapan) 木下 剛  
一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA) 立石 聡明  
一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC) 奥谷 泉

(野村総合研究所/京都大学 横澤 誠氏の代理発表として)

### 3. Japan-IGF とグローバル IGF

#### 3.1. NRI を取り巻く環境、IGF2016 における NRI 活動

株式会社日本レジストリサービス(JPRS)

高松 百合

#### 3.2. IGF-Japan の紹介・次回の案内

一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)

立石 聡明

### 4. まとめ、IGF 2017 に向けて

## 2. 口頭での報告内容・質疑応答・議論内容

### 2.1. 全体概要紹介

MIAU の香月氏、JPNIC の奥谷氏より、IGF 2016 の現地映像を交えながら全体概要についての説明が以下の通り行われた。

#### 2.1.1. 会場・会議の様子、Newcomers 向けの取り組み (MIAU 香月氏)

##### IGF に初めて参加した理由

- TPP と TiSA など（特に知的財産権）に関する議論に参加すること
- 各国のユーザー団体との交流を深め、新たな関係を構築すること

##### IGF 2016 の様子

- メインホールが 1 会場、ワークショップが 10 部屋あり、合計 11 のセッションが同時進行。
- 議論の様子は YouTube でリアルタイムに配信される。話されている内容は Transcript (発言録)として文字起こしされ、その場で参照可能。
- 外では食事の場所があり、ライトニングトークのセッションも行われていた。

##### Newcomer's session

- 毎日 Newcomer's session が開催されていた。
- 主な内容は、IGF で取り扱われているトピックの説明ではなく、「インターネットガバナンスとは何か」、「IGF の成り立ち」、「マルチステークホルダープロセス」の解説等基礎的な内容。
- 従って、IGF で議論されている内容について知りたい人には向いていなかった。
- IGF への Newcomers ≠インターネットガバナンスの Beginners : IGF 2016 の Newcomer's session で想定されている Newcomers は「インターネットガバナンス自体への Beginner」であった。しかし、IGF への初参加者は、それぞれの国において既に問題意識を持ち、活動をしている場合もあり、インターネットガバナンスのトピックスにおける Beginners とは限らない。
- 事前に情報収集することで事足りることも多く、参加前にしっかり情報収集をしていくべきと感じた。

## 2.1.2. 全体概要 (JPNIC 奥谷氏)

### IGF の特徴

- 国連主催で誰でも参加可能。
- 交渉決議をしないことで、異なる関係者が本音ベースで課題に対して議論し、理解を深める。
- Multistakeholder Advisory Group (MAG)がセッションの選定を行う。

### IGF 2016 を取り巻く環境

- 前年に国連で 2025 年までの活動延長が承認され、国連経済社会局 (UN-DESA) が今まで以上にコミットしている。
- IGF の長期的な改善について意見募集が行われ、初の民間出身で女性のチェアも就任。
- ホスト国のメキシコ：国内の ICT 推進、アクセス提供の充実に注力。国際的にもインターネットガバナンス分野で存在感を向上したいと考え、ホストに立候補。
- 参加者は 2000 名以上、セッション数は 200 を越え、非常に数が多いのも IGF の特徴。リモート参加、セッション動画も提供されている。

### 参加者の傾向：国別

- 50%以上が南米・カリブ海からの参加者でメキシコ開催の意義があった。
- 国別に見ると米国、ついでメキシコである。
- アジア太平洋地域で、中国、インド、日本からの参加率が高い。
- 日本はセッション応募数や登壇数が例年以上であった。

### 参加者の傾向：ステークホルダー別

- 欧州議会の議員が複数参加。
- World Economic Forum(WEF)と IGF 相互の連携を強める姿勢も見受けられた。

### IGF2016 の主な取り組み

- Intersessional Work の継続：事前にオンラインで議論を積み上げるなど、議論の継続的な検討と具体的なアウトプットの提示を目指している。
- 国別および地域別 IGF (NRI) との連携強化：NRI メインセッションが開催された。
  - 日本からは JPRS の高松氏が登壇した。
- 初参加対応の充実：香月氏より紹介された通り。

### IGF 2016 のテーマ「Enabling Inclusive and Sustainable Growth」

- 国連の持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals : SDG)との親和性を意識。
- 国、地域共通するテーマ「Connecting the Next Billing Phase II」は、WEF で取り組まれている「Internet Access for all」とも協調できるテーマ。
- メインセッション：貿易政策、Youth Engagement が新しいテーマであった。
- ベストプラクティスフォーラム：2016 年に扱ったテーマはアクセスに関する 3 つのテーマと「サイバーセキュリティ」

## 2.2. 各登壇者の視点

### 2.2.1. 政府

総務省高村氏から、総務省が IGF でオープンフォーラムを開催した理由及び、総務省の立場から見た IGF について説明がされた。

#### IGF に参加した一番大きなメリット

- 各国・諸団体のハイレベルと二国間会談を実施できたこと。
- IGF は他国政府の動向を情報収集できる場としても捉えている。

#### ハイレベルミーティング

- 中国政府が、文化の多様性は重要であるためインターネットは分断すべきだと主張。

#### 中国政府の開催したオープンフォーラム

- 会場はほとんど中国関係者で、外国からの参加者はイギリスと日本の政府。
- 文化の多様性が重要であり、文化の多様性を認めるためにはインターネットにも切れ目があるべきという旨の主張。
- 烏鎮サミットでも主張された内容を国際社会の場である IGF で打ち出していた。

#### 総務省が開催したオープンフォーラム

- 「香川高松・情報通信大臣会合の成果と取組」を国際社会に打ち出したいという動機。
- 「マルチステークホルダーの重要性」と「情報の自由な流通の確保」を G7 情報通信大臣会合、OECD、中国で開催された G20 で合意した。それらに所属していない各国や市民社会に打ち出すために、今回の IGF に参加した。
- オープンフォーラムで、今年ドイツが議長国として開催される G20 で、マルチステークホルダーの重要性と情報の自由な流通の確保を引き継ぐと宣言。

Q. 中国が分断されたインターネットの必要性を国際会議で初めて主張したが、これを既成事実にして次のステップに行く可能性はあるか？

A. 文化を足がかりにインターネットの分断を主張してきたのは今回が初めてである。元々中国は、政府の役割を国連の中で議論する場や ITU でも分断すべきだと主張してきているが、今まではナショナルセキュリティ（国防）の文脈で主張していた。この文脈は国家間の交渉ではありえるが、市民社会では受け入れられない可能性が高い。そこで、市民社会が受け入れやすい文化の多様性を足がかりに主張してきており、今後どのような場でもこの論調を使ってくる可能性がある。

## 2.2.2. 技術コミュニティ

JPRS 堀田氏、東京大学/ISOC 理事 江崎氏、JPNIC 奥谷氏から、技術コミュニティの視点から見た IGF の説明が以下の通り行われた。

- ・堀田氏

### IGF 2016 のトップアジェンダ

- セキュリティ関連の Workshop を提案、実施したこと。

### Collaborative security に関する Workshop について

- IGCJ で「セキュリティに対する考え方」を 2015 年中心に議論してきた
- 2016 年 6 月には、ドキュメントとして取りまとめて日・英両方で世界に向けて公開
- 考え方の源流は ISOC 本体の collaborative security の考え方と通じるもの
- IGCJ での検討はある種、ISOC の活動を国や地域レベルに落とし込んだ活動(local context 化)と、見なせる。
- 2016 年 4 月、G7 情報通信会合に伴う ISOC president & CEO 来日時に、共同で IGF への“Collaborative Security in local contexts”をテーマとしたワークショップセッションの応募を合意
- 実際に IGF に提案し、採用され、ワークショップセッションとして実現した。
- そういう意味では、IGCJ の皆様全体の活動が世界に認められた一つの形だと考えている。
- ワorkshopセッションでは以下の通り地域やバックグラウンド等多彩な登壇者により、非常によい議論がなされた。
  - Olaf Kolkman, Internet Society : モデレータ
  - 江崎浩, University of Tokyo, WIDE Project
  - Nick Shorey, Department for Culture, Media & Sport, UK Government
  - 伊藤友里恵, CyberGreen Institute, JPCERT/CC
  - Moctar Yedaly, African Union Commission
- 内容の感想については、セキュリティドキュメント策定に向けて IGCJ のチームを引っ張り、また IGF のセッションにてパネリストも務めた江崎氏に譲る。

・江崎氏

### Collaborative Security の Workshop

- 日本の活動が ISOC 本体と整合性が取れているのでアフリカやヨーロッパにおいても広めて実施したいという動機で開催した。
- G7 から OECD にかけての日本の活動が、ISOC CEO の Kathy Brown にも評価されており、日本は今までは目立ってなかったが IGF では上手に働きかけている印象を与えることができた。
- 我々の経験を上手に出していきながら、他のところから学べるところがあれば取り入れていきたい。

### Workshop 以外の IGF での活動

- 「サイバーセキュリティ」のベストプラクティスフォーラムにも招待され、IGCJ で議論された内容を話したところ非常に好評だった。
- 我々のやってきた活動は間違っていないし、先進的な面を持っていることが分かった。
- 最終日に若者の参画に関するセッションに急遽招待され、シニアと Under 30 (1 人は高校生) と壇上で話をする機会があった。
- IGF に若い人がどんどん参加し、次世代のインターネットの話をしたり、グローバルな視点でリーダーシップをとっていけるようなチャンスを作りたいという議論があった。
- IGF は最終日に向かって突然呼び出されるというセッションの作りで、流動的にアジェンダが動いていく。

・奥谷氏

### ・資源管理・アクセスに関するセッションについて

- 「IXP」や「IPv6」といったインフラオペレータにも身近なテーマが扱われていた。
- IPv6 は IGF2016 における国、地域をまたぐ横断的テーマであった「Connecting the Next Billion」との親和性が高い
- 今回 IPv6 ベストプラクティスフォーラムで策定した文書ではフォーカスしていないが、IoT、スマートシティといった文脈でも着目

・ Collaborative Security に関する補足説明が以下の通り行われた。

・堀田氏

Collaborative Security とは、本当にインターネットを安心、安全に使うためには、自分の周りだけ安全にするのでは不完全。お互いに協力して自分も他人も安全にしなければならないという、皆で協力してインターネットを安全にしていくという基本的な考え方のことを言う

・江崎氏

ISOC を中心にインターネットへの「トラスト(信頼)」を高めていこうとしている。今のインターネットは危険なので、安全のためナショナルセキュリティも含めてプライベートネットワークで分断しようという主張は良くない。トラストを形成するためには、誰かが全ての問題を解決することはなく、すべてのステークホルダー(関係者)が協力して信頼につながる運用、技術、制度などを作っていくべきという考え方。ISOC は全部をカバーできるわけではないので、DNS と IP 周りの技術的、運用的な部分の見本を提示する姿勢である。グローバルエコノミーの中で、政府はどう考えて欲しいか、他のプレイヤーにどうやって欲しいか、

議論するような協力の体制を作り、信頼につながるな Global Digital Platform を構築すべきという考え方。

・奥谷氏

Collaborative Security の考えを広めることが大切である。例えばインドネシア政府が、セキュリティのためにイントラネットを推進する IGF でのメインセッションを提案する等、セキュリティ対策として分断されたイントラネットを推奨する政府も少なくない。

Q. IGF に行った目的と、それは達成できたのか。

A. 堀田氏

今回企画したワークショップがうまく行くかというのが自分の今回の目的の 8 割で、残りの 2 割は ccTLD 関連の情報収集と意見出し。そのような意味ではワークショップを開催した時点で元々 80 点は取っていた。

A. 奥谷氏

IPv6 のベストプラクティカルフォーラムで文書を策定することで、技術者以外の人に IPv6 導入の意義を理解してほしいという想いがあった。セッション後、中国の民間企業やメキシコ政府、民間の人に強い関心を示してもらえたという点で成果はあった。

A. 江崎氏

色々な人たちが動いていることや取り組むべき課題がまだまだ残っていることを実感できた。大きな収穫だったのは、総務省の方々が IGF の活動を加速してくれているということ。トランプがアメリカ大統領なったので色々な意味でこういった場に出て行かないといけなくなり、日本の責任を肌で感じた。ヤングジェネレーションのセッションでは、シニアが IGF に参加するのも重要だが、他の国の政府は次世代を IGF に出してきていて、そういう政策を我々もしていかなければならないと、教科書ではなくて現場で分かった。日本からも志の高い若者が IGF へ参加してもらえるといいと思った。

### 2.2.3. アカデミア・市民社会

MIAU の香月氏、大東文化大学の上村氏からアカデミア・市民社会の視点から見た IGF の説明が以下の通り行われた。

・ 香月氏

#### 参加したセッション

- Newcomer's session に加え、メディアやジャーナリズムに関するセッションにも参加。
- Social media and youth radicalization in the digital age
  - ▶ ソーシャルメディアに若い人たちが触れることで過激化されてしまうという問題を扱っていた。かなり大きな会場だったが立ち見が出るほど盛況。
- 表現の自由と極端な言論にインターネットガバナンスがどうチャレンジできるかというセッションと、ジャーナリストの取材活動における暗号化のセッションにも参加。
- TPP のセッション

#### TPP セッションについて

- TPP の交渉官を務めたメキシコの弁護士が登壇。
- 紛糾したテーマは知的財産 (IP)。知的財産は貿易対象というメキシコの主張に対し、アメリカの市民団体であるパブリック・シティズンや電子フロンティア財団 (EFF) の弁護士は貿易の対象ではないと対立。
- メインセッションで紛糾した議論は、インターネットと国際通商協定との関係において、ロビーイングはマルチステークホルダープロセスか否かという点。
- 国際通商協定にマルチステークホルダープロセスを取り入れようとする、ロビーイングをどうとらえるのが議論になるところ

#### 所感

- さまざまな国のユーザー団体の人と話をしたが、その国で持っている問題意識も多種多様だった。
- ユースラジカライゼーション(若者の過激化)の問題は深刻。フェイクニュース対策と検閲の関係はどうあるべきか。オンラインハラスメントに対する最良の対抗策はオフラインになると IGF で主張されていたのは興味深かった。



・上村氏

### Global Internet Governance Academic Network (GigaNet)

- GigaNet の年次シンポジウムに参加し、ドメイン名政策に関する研究発表をした。
- インターネットガバナンスの研究者(Political Sciences)の集まり。ジョージア工科大学のミルトン・ミューラー教授などが中心になって立ち上げた。
- IGF に合わせて年次研究シンポジウムを開催するほか、ワークショップを開催している。

### 研究結果

- ドメイン名の登録料と登録数の計量分析から導かれる政策的な意味に関する研究を行っている。
- 以前の研究より、ccTLD と拡張前の gTLD における価格弾力性の有無は分かっていたが、今回の発表はこの研究を新 gTLD プログラムで拡張された gTLD に広げたもの。
- 新 gTLD のうち地理的名称 gTLD、国際化 gTLD、その他の一般の新 gTLD では、利用者の反応が異なることが確認された
- このことから、トップレベルドメイン名空間は単に拡張されただけではなく、トップレベルドメイン名空間に対して利用者がもつ異なる不可欠性・必要性が反映されていることを示すことができた。
- ドメイン名空間の拡張の方向性が ICANN のポリシーとして妥当であったかの検証により、ICANN の TLD 空間拡張には妥当性があったと言える。

### GigaNet 以外の IGF での活動

- 国際化ドメイン名の普及に関するセッションを中心に参加。
- ICANN の内側にいる人は、作ることに注力するが、作った後の積極的な評価は、話題にならず、アプリケーションやサービスが IDN に対応していないことといった技術的な課題について話をした。

### IGF 開催当初と IGF2016 を比較した印象

- IGF に本物の専門家が参加するようになったことを変化として感じる。
- TPP のような難しい通商問題を IGF で議論できるようになったのも大きな変化。
- 参加するステークホルダーの多様化：World Economic Forum のような組織や、香月氏のような市民団体の方も参加している。
- 人材の循環が生まれている：かつて Youth として IGF に参加した人が GigaNet で博士課程の学生として発表していた。日本も促進していきたい。

Q. IGF 開催当初は今後継続できるのかと知っている人が多かったが、今日本からもこんなに盛り上がってすばらしいと感じた。日本がワークショップを開催し、国際的に大きな役割を果たすことができたと思う。一方、日本の場合、市民社会やアカデミアからの組織的な参加が無いような印象を受ける。ビジネスも同じ印象だが、これは諸外国と比べて何が日本の課題なのか。

A. 上村氏

アカデミアだと研究テーマとして扱っている研究者がそこまで多くないという現状がある。会議に出るほど突っ込んでやっている人がいないのが大きな問題。

A. 香月氏

市民社会では、そもそも日本において他に団体があるのか疑問。世界的に見ても同じことが言える。日本国内

で組織化するというよりか海外の EFF など連絡を取り合っていた人たちと会えたことが大きい。

## 2.2.4. ビジネス

IAJapan の木下氏、JAIPA の立石氏、野村総合研究所／京都大学の横澤氏の代理として JPNIC の奥谷氏から、ビジネスの視点から見た IGF の説明が以下の通り行われた。

・木下氏

### 最近の変化

- 昔に比べて議論するテーマが明確になり、国連の「維持可能な開発目標(Sustainable Development Goals, SDGs)」に対していかにインターネットが関わっていくのかが前面に出るようになった。
- 産業界だけではなく「マルチステークホルダー」を IGF 全体で促進する傾向が昨年あった。
- IGF 2016 は、IGF 開催の延長が無事国連で承認されたせい、インターネットへのトラスト（信頼）への問題がトーンダウンし、代わりに SDGs の 17 項達成をどう実現するのかに焦点があてられていた。

### ビジネスとしての IGF への関わり

- 産業界代表として意見集約をする役割を持つ団体である国際商業会議所(International Chamber of Commerce, ICC)があり、日本支部もある。その中で、情報化社会のテーマをマルチステークホルダーとして関わっていく委員会 ICC's Business Action to Support the Information Society (ICC BASIS) がある。
- ICC BASIS は IGF 期間中毎朝ブリーフィングを行い、産業界として着目されているセッションに参加の担当を分担して情報収集している。
- 半分は米国の産業界の方だが、地域を限定しているわけではなく、30~40 名集まる。

### Global South

- 今回の目新しい言葉。
- Global South の人にインターネットがどう使われているのか。SDG を絡めて議論されていたことが印象的。

### オンライン上の世論形成

- ビジネスの視点では SNS が個人だけではなく企業のブランドイメージを傷つけるという観点の話も印象的。

### Emerging Technology への姿勢

- IoT や AI などをビジネスとしては活用する。新しい技術をインターネットのビジネスが健全に使えるようにしていくことの大切さを確認。
- 一方、目新しさだけではなく安全性の担保の重要性も強調。

#### 印象に残った言葉

- ネットワーク中立性だけではなく「Fragmentation」という言葉を何度も聞いた。

#### 表現の自由に関する個別会議

- 国連の表現の自由に関する調査団の団長 David Kaye 氏を交えた個別会議に参加。
- 違法有害情報の対策、反対の意見も出て面白い。

#### ネット中立性

- アドブロック：日本では少ないが欧米では主流
- 世界のトラフィックの 70%は広告。
- ネット中立性については FCC の方とも意見交換、日本のネットワークを取り巻く環境に興味をもった

#### ゼロレーティング

- EU としての判断は確定していないが、各政府はゼロレーティングへの対応を進めてきている
- ノルウェーは欧州電子通信規制機関 (Body of European Regulators for Electronic Communications: BEREC) のガイドラインに基づき対応。
- インドの電気通信規制庁がゼロレーティング電話を排除。IGF ではインドの参加者からインドにとってゼロレーティングは憲法上の問題との意見も表明された。
- 南米地域はメキシコではゼロレーティング電話を許可されているが、南米の他国はほとんど禁止。
- EU はノルウェーでの取り組みをきっかけに規制の流れが強くなっていくと思われる。
- Facebook の「Internet.org」の主張は正しいのか？

#### 日本におけるネットワーク中立性

- 弁護士事務所からの意見：ゼロレーティングは独禁法の可能性もあるのでは。
- 児童ポルノサイトのブロッキング：訴えられることがないのではっきりしていない。

#### ネットワークのコスト負担問題

- 今回このテーマについてはほとんど扱われなかった。

#### 2016 年度 IGF-Japan の開催について

- 3 月 7 日開催
- ネットワーク中立性をパネルディスカッションで議論する

・奥谷氏（横澤氏の代理として発表）

- SDGs は、IGF2016 でも前面に押し出していたが、インターネットガバナンスにおける新たな共通認識の土台という役割を持ち始めている。
- ビジネスから見たマルチステークホルダーの必要性
  - ◇ 細かい個人情報の実態を知るのは現場の事業者（例）個人情報保護法など
  - ◇ 技術の急速な進展により、政策担当者の理解が追いつかない
- マルチステークホルダーの解釈のひとつではなく、さまざまな形のマルチステークホルダー体制も着目される

#### 情報の自由な流通

- 資料の図では、国ごとの情報の自由な流通の状況を示しているが、このテーマについては日本政府によるオープンフォーラムでも取り上げて紹介。
- ・IGF で議論された内容以外にも色々ビジネスの視点でインターネットガバナンスの動向が紹介されているので、詳しくは資料を参照いただきたい。

### 3. Japan-IGF とグローバル IGF

#### 3.1. NRI を取り巻く環境、IGF2016 における NRI 活動

JPRS 高松氏より、National and Regional IGFs (NRI)のメインセッションの説明が以下の通りなされた。

#### 国別および地域別 IGF (National and Regional IGFs , NRI)

- 実態としては Youth も含め、国別、地域別、そして若者を中心に作られている IGF がある。
- それぞれの地域、国での議論内容を踏まえて、グローバル IGF の議論を深める。

#### NRI の増加

- 2015 年の 40 弱から 72 になる。(National IGF が 49、Regional IGF が 15、Youth が 8)

#### セッションの内容・様子

- メインセッションは 3 時間、話者 40 名で、それぞれの NRI から簡単に活動報告がされた。
- テーマは、「安心・信頼のインターネットとは何か」、「途上国を中心にイベント開催の資金調達方法」に関する意見共有など
- 参加率の高さに国連の事務局職員も驚いていた。
- 国連経済社会局に向けて、各国 NRI の現状や資金援助の要望も伝えられた。

#### NRI でのセッションを振り返って

- 各国の NRI は 2,300 人から 30 人まで規模が多種多様
- リモート参加も推奨されるが、実際に現地に参加することはメッセージが大きいと感じた。

Q. セッションは盛り上がっていたか。

A. 盛り上がっていた。一方で、意見共有し合うだけで議論ができていないのではという意見もあった。

Q. それぞれの国によって NRI の存在や位置づけも違うと思うが、どう感じたか。

A. 情報共有、認知度向上を目的にしているところもあれば、政府関係者が参加し国際社会でメッセージを伝える場という位置づけで開催している NRI もあった。

### 3. 2017 年の IGF の案内

- APrIGF : 7月26日～29日にタイ・バンコクで開催予定
- IGF 2017 : 12月18日～21日にスイス・ジュネーブで開催予定